2013年の第一歩は、語れる靴で！

大人のおしゃれは"品と格"

[メンズ・イーエックス]

MEN'S EX

2月

定価780円

www.mens

別冊付録

20th Anniversary
SHOES BOOK
大好評 第2弾
「ベルルッティ」
魅惑のオーラ

靴はもっと愉しめる！

語れる靴を手に入れる

イタリア靴の「洗練」

表紙の人
鹿賀丈史

ジャン・アレジが挑戦
オーダースーツは一流メゾンで

金運UPの秘訣！
開運！ 長財布選び

旅する親父 松山 猛の
ドイツプロダクト・トリップ

カンタンでうまい！と評判の
ちょっと贅沢な『缶つま』

昭和の殿堂
ウルトラセブン45周年

05

ステファノ ビジ　CEO
ステファノ・ビジ

Stefano Bigi

―お洒落とは……

真のエレガンスとは
〝人目を引く〟ことなく、
他人から〝お洒落と思われる〟こと。

[Profile & Style]

1966年、ミラノ生まれ。祖父ルイジ・ドラーギのタイ工場を父親が再生し、ステファノの代に、姉のパオラとともに規模を拡大。いまやグローバルブランドに成長を遂げた。大きなタイ生地を広げてから畳んで見せていくプレゼンテーションは昔ながらの手法。祖父の代からの豊富なアーカイブを復刻したり、新進の生地メーカーとコラボレートするなど、新たな試みにも積極的。180cm以上の体格を生かし、若い頃は本格的に登山に取り組み、アイガー北壁チャレンジや、アンナプルナを20日間で走破した経験もある体育会系。

•

シャツは懇意にしているカミチェリア・リガモンティ。カルロリーバの生地でダブルカフス仕立てに。スーツはスティヴァレリア サヴォイアのス・ミズーラ。同店はオーダー靴の工房として知られているが、いつも靴ではなくスーツを仕立てる。この日の靴は伊パルマのバレットのもの。

	05	04	03	02	01
name	**Stefano Bigi** ［ステファノ・ビジ］	**Pino Luciano** ［ピーノ・ルチアーノ］	**Orazzio Luciano** ［オラツィオ・ルチアーノ］	**Massimo Piombo** ［マッシモ・ピオンボ］	**Jeremy Hackett** ［ジェレミー・ハケット］
あなたにとって〝お洒落〟とは？	英国流のエレガンスを踏襲したスタイルが好きです。クラシックのルーツは英国で、そのスタイルには普遍性が備わっています。そのルールは決して変えてはならないものだと考えているのです。**エレガンスは目を引くものではなく、ダンディとは対局にあるもの。これみよがしに飾らずとも、周りはちゃんと気づいてくれるはず**です。それこそが、お洒落の基本だと信じています。私のスーツは、いつもネイビーまたはグレーのストライプ柄。これも決して変わることはありません。	朝時間がなくて慌てて着替えてしまった日は、服装が気に入らなくて、一日中不機嫌になってしまうこともあります。**「着ることが人を表す」とはそういうことで、余裕のない自分や、納得いかない気持ちがそのまま顔や振る舞いに出てしまう**ということ。フィットがあっていない、今日の席に相応しくないといった服は、不快な服です。たとえジーンズでも、人に会う仕事がない日やリラックスしたい日なら快適に着られるし、表情も和らぐというもの。もちろん、親父はいい顔をしませんが(笑)	服装がきちんとしているということは、私にとって当たり前のことであって、わざわざお洒落をするために服で着飾るようなことはありません。針と糸を持つ仕事のときもタイは必ずしていますし、パーティに出席するときも、わざわざ装うのではなく、きちんと服を着ることで自分を表現します。つまり、**ジャケットを着てタイをするのは、毎日食事をとるのと同じことなんです**。私がきちんと服を着ないのは、シャワーを浴びるときだけだと思います(笑)。それが私のスタイルなのです。	お洒落とは、〝Only beauty〟であって、〝not luxury〟なのです。イタリア語でいうならば〝Belezza(光り輝く)〟ですね。有名ブランドの上質な素材を使った手の込んだデザインの服は確かに高価で贅沢ですが、それはお洒落と関係ありません。**お洒落とは建築や芸術と同じように、〝美〟を感じさせるもの。美しい色、美しい素材、美しいフィット……ただそれだけのことです**。服は着る人の傍らにあって、その人を静かに表現するもの。〝Beauty for Fashion〟が私の目指すところなのです。	ファッションは建築に似ています。そぎ落とされたミニマリズムはとても美しいですが、そこへ至るのが難しい。**私を「Mr.シンプル」と呼ぶ人がいるように、コーディネートは、できるだけ装飾を排すことを心がけています**。本当に自分にとって必要な服だけ、自分に似合う服だけを選んでいけば自然とそうなるはず。服に着られているうちは、決してお洒落とはいえません。お手本はケーリー・グラント。〝シンプルに〟が一番難しいですが、彼の着こなしは、スーツからカジュアルまで完璧です。
大切にしていること	**●タイは素材使いで新鮮に** タイはつねに最新のものを着用する。この日は白ベースにブルーのストライプ。シルク×リネンの混紡で、織り感が爽やかな素材使いであった。最新コレクションはプリントよりもジャカード、ガルザ素材が多い。 **●ONとOFFは着分ける** 最近はボリオリのジャケットにインコテックスのパンツという着こなしもするが、平日は基本的にスーツスタイルを好む。反対に休日は海や山で過ごすことが多いため、機能的なアウトドアウェアを愛用するのだそう。 **●愛用するマリンウェア** 週末の夜、ミラノを出てスイスとの国境に跨るマジョーレ湖畔の別荘へ。そこで愛用しているのはSLAMというジェノヴァ発のマリンブランド。オリンピックをはじめ海外の主要なレースでも採用される、イタリアを代表するブランドだ。	**●スナップの常連** 世界中のファッションスナップブログを見ていると、必ずといっていいほどピーノさんの写真と出会う。ピッティ会場ではもちろん、ミラノの街角で知らないうちに撮影されていたことも。 **●色柄使いの上級者** Facebookには自分の着こなしを数多くアップ。最近は多彩な色柄使いが多く、この日も親子で挿したポケットチーフに、その片鱗が窺えた。オンもオフも鮮やかな色と柄を巧みに組み合わせるテクに、陽気なナポレターノらしさが見てとれる。 **●デニムも好き** お客さんと会うことのない日は、デニムで出勤することも。ノータイでジャケットを羽織ったビジネスカジュアルも、スマートにこなす。〝寝るときもタイをしていたい〟父オラツィオから見れば、そういうところが気に入らないらしい(笑)。	**●いつでもタイを** 針仕事のときでさえタイを外すことはないというオラツィオさん。できることなら、ベッドの中でもタイをしていたいと本気で言う。トランクショーで海外を飛び回るが、機内でもタイをきちんと締め、シートに深く腰掛けているという。 **●人の服を見るのが好き** 「職業病」だと笑うが、人の服を見ることが好きだ。服装で、その人がどんな性格の人物であるかを考えているのだという。 **●息子のスーツ** 息子のスーツは自分が手掛ける。「小さい頃から、仕事場でよく寝ていたよ(笑)」という息子の服を仕立てることは、最高の喜び。「でも客としては一番煩い」のだとか。一番長くお客さんとして作っているのが息子の服ゆえに、仕上がったスーツはもっとも完成度が高いのだ、と胸を張る。	**●〝モノコローレ〟** この日のテーマは〝Uomo in blu〟。グレーがかったネイビーJK、シャツ、タイ、ニットとネイビーで統一したスタイルを好む。色は1点くらいに留める(＝モノコローレ)ほうが、色が引き立ち、エレガントに見える。 **●世界中から上質素材を** 2013年の春夏コレクションに多用する「マサワコットン」は、エチオピアのマサワ地方で採れる上質コットン。ほか、ベルギー産の最高級リネン、また仏リヨン産のシルクやプリントなど、素材選びには絶対的にこだわっている。 **●〝貴族のシャツ〟を愛用** 1930～40年代、イタリアの貴族が愛用したシャツ屋「RABITTI」に注目。中に裏地を貼ったシャツは貴族の証で、かつてはアニエッリなども同じものを着ていた。そんな「プライベートコード」も重視している。	**●初ス・ミズーラは7歳** ブリストルで、7歳のときオーダースーツを仕立てる。「ドネガルツイードでチェンジポケットにボウタイ。今のトム・ブラウンみたいでしょ(笑)」。この頃からファッションに興味があった。 **●動物がモチーフ** 自宅の庭にやってくる野生のキツネやキジ、旅先で見た象などの動物にインスパイアされたモチーフを、タイやチーフの柄、カフリンクスやタイクリップなどの小物に使う。愛犬のサセックススパニエルの赤茶色を再現してオリジナルで織ったツイードは、「サセックスツイード」と名付けられた。 **●実は「ゴルフ」ラバー** J.M.ウエストンの「ゴルフ」を30年間愛用。2～3年に一度は同じモデルを買い替える。この形なら、おろした初日から足が痛くならないとか。パンツの折り返し幅は1.58インチ(約4cm)。